

タイムズ



ミャンマーにおもちゃを

みなさんのおうちで眠っているおもちゃをミャンマーの孤児院で暮らす子どもたちに届ける活動があります。孤児院には親が病気で亡くなったり、家が貧しかったりして家族と離れて暮らしている子どもたちがいます。つらいことも多いですが、カラフルで楽しいおもちゃがあると夢中になって遊び、笑顔になることができます。

ミャンマーの子どもたちへおもちゃと笑顔を届ける活動をする人々を紹介します。

福岡ライオンズクラブ(LC)の瀧野隆さん(79)はコロナ禍で帰国するまでの9年間、ミャンマーの都市ヤンゴンに住んでいました。現地の人たちの助けになろうと小中学校や日本語学校をつくりました。その頃から2カ所の孤児院も支援し、2〜16歳の計350人ほどの生活を支援しています。しかし、子どもたちとスタッフは安心して生活できない状況にあります。

ミャンマーでは昨年、国軍が力で人々を支配するようになり、危険が増え、食べ物も高くなりました。今は日本にいる瀧野さんですが、寄付などを集めて食べ物を買うためのお金を毎月送っています。

使わなくなったら「病院」で修理しお届け



おもちゃで遊ぶミャンマーの子どもたち



日本から届いたおもちゃに笑みをこぼす女の子

夢中で遊べる時間を

おもちゃの寄付は2017、19年に行いました。瀧野さんは「おもちゃが届くと孤児院は熱気に包まれる」と話します。活動に協力しているのは壊れたおもちゃを無料で修理する「おもちゃ病院伊都国」(福岡県糸島市)。昔は電気技術者、学校の先生、銀行員だった人など20人が「ドクターズ・ナース」としておもちゃを修理するボランティア団体です。例年はプラレールやラジコン、アンパンマンのピアノなど約450点をなおして持ち主のもとに返しました。

おもちゃ病院では、県内の福祉施設やミャンマーの孤児院に寄付するため、使わなくなつたおもちゃを集めています。しかし最近ではコロナ禍でおもちゃを寄付場所に持ってくる人が減りました。十分な数が集まらたら福岡LCが引き取り、ミャンマーにいる瀧野さんの教え子が孤児院に持っていく予定です。

3月30日に瀧野さんからミャンマーや孤児院の状況について話を聞いた代表の北原誠さん(72)は「ミャンマーのニュースを見るたびに孤児院のことが気になってきた。みなさんからおもちゃが届いたら壊れていてもなおして引き渡すので、寄付してもらいたい」と話しています。(中野慧)

眠っているおもちゃ、寄付を

福岡LCとおもちゃ病院伊都国のメンバーたち



福岡県糸島市で受け付け、修理

「おもちゃ病院伊都国」では、おもちゃの寄付を受け付けるボックスを福岡県糸島市内の2カ所に設置しています。集まったおもちゃは手入

れをして福岡ライオンズクラブ(LC)を通じてミャンマーの孤児院などに送られます。おもちゃの修理依頼はホームページや電話で。

【寄付を受け付けるボックスがある場所】

①糸島市子育て支援センター すくすく (休館日=日・祝日)

住所=〒819-1119 糸島市前原東2-1-25
電話=092(321)0464

②糸島市NPO・ボランティアセンター こらぼ糸島 (休館日=日・月)

住所=〒819-1116 糸島市前原中央2-14-14
電話=092(324)9181

【修理の依頼・問い合わせ】

ホームページ=「おもちゃ病院伊都国」を検索し、「いつ・どこでやってるの?」→「修理予約問い合わせ」のページからフォームに入力して申し込みができます。QRコードを読み込んでもアクセスできます。

電話=080(8390)8154

